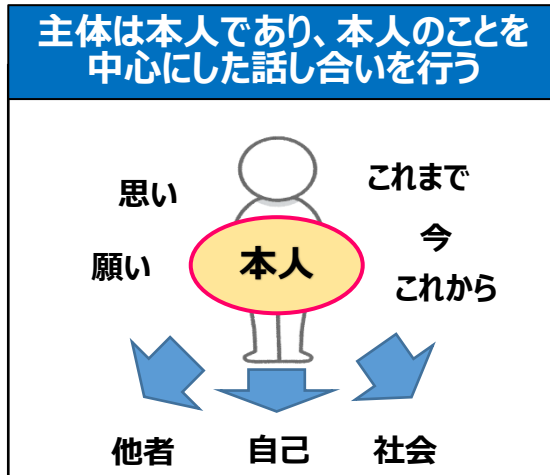
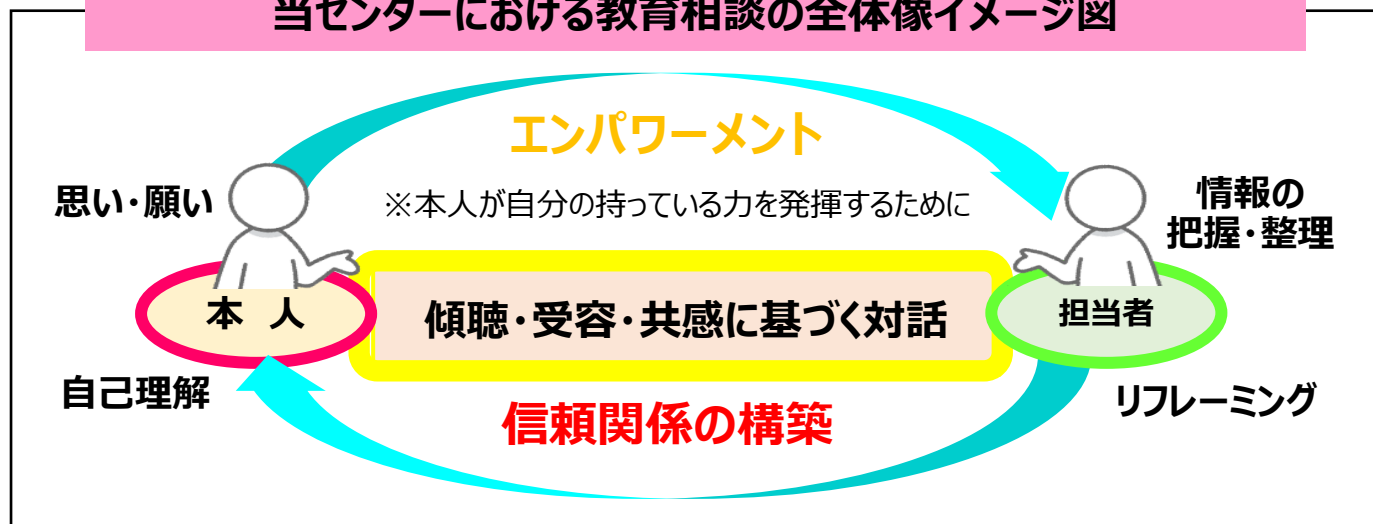


12月1日(金)に行った第38回福島県特別支援教育センター研究発表会において、教育相談係から、当センターの教育相談で大事にしていることやポイントをまとめた実践報告をしました。12月号と1月号は、その実践報告の内容から抜粋してお伝えします。

教育相談において、私たち相談担当者が共通理解し、大事にしているのは「**主体は本人であり、本人のことを中心にした話し合いを行う**」ということです。教育相談に来る本人は、これまでのできごとやかかわりの中で、悩んだり傷ついたりしていることが少なくありません。本人は、今の自分と向き合うことから始め、「**これまでと今**」について整理したり、自分の思いや願いに目を向けたりすることで、「**これから**」について考え、再度できごとやかかわりに向き合っていきます。それは、「**自己**」「**他者**」「**社会**」と向き合うことだと言えます。私たち相談担当者は、その過程を支え、応援する役割を担っていると考えます。



当センターにおける教育相談の全体像イメージ図



上の図は、当センターにおける教育相談の全体像のイメージ図です。基本となるのは、「**傾聴・受容・共感に基づく対話**」です。本人と言葉や表情による対話を重ねていくことによって、信頼関係を構築していきます。その中で、本人の思いや願いを把握し、得られた情報から、状況や課題を整理したり、リフレーミングしたりしていきます。対話は、**一方向や単発的なものではなく、本人と相談担当者の中で、ラリーのように発信と受信を繰り返すこと**だと考えています。そして、その対話のラリーをしながら、本人が、自己の気持ちや考えに気づき、自己理解を深め、これからの目を向けていく過程を伴走します。現時点では、苦しさや悩みが大きく、自身の可能性や選択肢に気付いていない状況であることが多いのですが、本人には、**自分の人生を切り拓く力**があると考えます。最終的には、本人が自分のもてる力を発揮し、次の一步を前向きに歩み出すお手伝いをしたいと思っています。

対話: 一方向や単発的なものではなく、本人と相談担当者の中で、ラリーのように発信と受信を繰り返すこと
 ※対話のラリーによって、より相手の考えを知ることができたり、自分の意図を相手に伝えることができたりした経験があるのではないのでしょうか。そのようなやりとりを大事にしたいですね！

本人の本音や、感じ方考え方を知ることができるからこそ、一緒に悩んだり考えたりすることができる

次号では、対話のラリーを行いながら、私たちが大切にしている視点についてお伝えします。